

| 科目名 | 期別 | 単位数 | 開講年次 | 担当教員名 |
|--------------------------------------|----|-----|------------------|-------|
| (新) 国際政治学Ⅱ (旧) 国際政治学Ⅱ (アジア政治論) | 前期 | 2単位 | (標) 1年 (既) 1年 | 張 国興 |

授業目的 法科大学院の隣接科目の1つとして、主に第二次世界大戦以降のアジアをめぐる国際政治経済の動き、50年代から80年代にかけての東西冷戦期における安全保障体制(米ソ両陣営の2国間又は集团的安保体制)、90年代からのポスト冷戦期における重要テーマである地域紛争、民主主義、人権問題、globalization、地域的政治経済統合、WTO体制、地球環境問題、ODAなど日本の国際貢献、中国の大国化等々について学ぶ。

達成目標 北東アジア、中国大陸、東南アジアなどを含むアジア太平洋地域の20世紀後半以降、現在に至るまでの政治、経済、安全保障など諸問題の総合的理解を修得することを目標とし、アジア国際政治関連の研究報告の提出を単位取得の要件とします。

| 授業計画と予習事項 | 回数 | 各回タイトル | 授業内容、予習基本事項 |
|-----------|----|-------------------------|--|
| | 1 | 戦後東アジアの政治・経済・安保関連日誌(3回) | 第二次世界大戦後、日中米ソなどの大国を中心にアジア太平洋地域の政治・経済や2国間安全保障体制の成立とその後の経過を概観する。 予習文献：張国興小論文〈中国・台湾と日本〉 |
| | 2 | 戦後東アジアの政治・経済・安保関連日誌(3回) | 第二次世界大戦後、日中米ソなどの大国を中心にアジア太平洋地域の政治・経済や2国間安全保障体制の成立とその後の経過を概観する。 予習文献：張国興小論文〈中国・台湾と日本〉 |
| | 3 | 戦後東アジアの政治・経済・安保関連日誌(3回) | 第二次世界大戦後、日中米ソなどの大国を中心にアジア太平洋地域の政治・経済や2国間安全保障体制の成立とその後の経過を概観する。 予習文献：張国興小論文〈中国・台湾と日本〉 |
| | 4 | 日米安保体制と集团的自衛権問題 | 1960年代から現在に至るまでの日米安保条約の主な内容(経済協力、基地問題、事前協議、後方支援など)、国連憲章第51条の規定する個別的又は集团的自衛権の行使などを考える。 予習文献：新版『国際関係』第3章3日本の安全保障、「国連憲章」第8章地域的取極 |
| | 5 | 民族問題と人民自決権 | 他民族国家の民族主義と少数民族の権利主張の調整から1960年代の国連における国際人権規約(人民自決権の確立)の採択を歴史的視点から分析する。 予習文献：『国際政治経済資料集』F、主権国家 Q、人権 |
| | 6 | 朝鮮半島とベトナムでの熱戦 | 東西冷戦下、1950年6月に勃発した朝鮮戦争と1960-70年代のベトナム戦争、その背景を究明し、東アジアにおける地域の安定と集团的自衛権の行使の意味を考える。 予習文献：『日本外交史ハンドブック』28朝鮮戦争 38ベトナム戦争 |
| | 7 | 国連と日本のODA | 国際連盟と国連の異同を明らかにし、国連安保理常任理事国の構成の問題点や国連の開国を議論する一方、平和外交の一環として、日本のODAのありかたを考察する。 予習文献：『国際政治経済資料集』G、国際組織 O、貧困と開発、新版『国際関係』第4章3経済協力と日本 |
| | 8 | 国際通貨・WTO体制 | 世界経済の発展と通貨の安定を目標とするIMF・世界銀行の役割、1980年代以降の主要通貨の取引拡大、1995年のWTO体制確立の意味について考える。 予習文献：『国際政治経済資料集』N、経済摩擦 |

| | | |
|-----------------------------|---|--|
| 9 | 地域的統合の動き | 1950年代の経済統合から政治統合・単一通貨へと統合を深化拡大させた EU、EU 統合に触発されて経済統合を進める米州と APEC の動きを比較検討する。 予習文献：『国際政治経済資料集』H、地域統合体 |
| 10 | globalization と多国籍企業 | globalization の背景（モノ・ヒト・技術の移動の高速化など）と影響を考え、主要国の多国籍企業について分析する。（英語の資料を使う予定） 予習文献：『国際政治経済資料集』I、多国籍企業、新版『国際関係』第2章3国家以外の主要なアクター |
| 11 | 民主化と人権問題 | 戦後、政治的独立を勝ち取った「第3世界」の人口増加、貧困問題、1960年代以降の国連開発の10年、民主主義と「持続可能な発展」・基本的人権の相互依存関係を学ぶ。 予習文献：新版『国際関係』第5章国際社会と人権問題、『国際政治経済資料集』Q、人権、『現代アジア政治経済学入門』第1章第3節アジア政治の特性 |
| 12 | 地球環境問題（2回） | 酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化、熱帯林の破壊問題を考え、地球環境問題をめぐる国際協力の流れを究明し、「京都議定書」のポイントや日本の役割を議論する。 予習文献：新版『国際関係』第6章地球環境問題、『国際政治経済資料集』R、地球環境 |
| 13 | 地球環境問題（2回） | 酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化、熱帯林の破壊問題を考え、地球環境問題をめぐる国際協力の流れを究明し、「京都議定書」のポイントや日本の役割を議論する。 予習文献：新版『国際関係』第6章地球環境問題、『国際政治経済資料集』R、地球環境 |
| 14 | 日本の戦後外交 | 戦後の日本外交の課題、経済復興と主権の回復、日米同盟関係の強化、国連加盟、対韓・対中関係の正常化、ODA 外交の展開と限界、テロ対策、FTA の締結について学ぶ。 予習文献：『国際政治経済資料集』U、日本の外交 |
| 15 | 現実主義と相互依存の深化 | 国際政治経済の見方としての覇権論や国際的相互依存論を従属論や世界システム論と比較検討する。 予習文献：『国際関係論』第2版第4章グローバリズム |
| 授業方法・予習上の留意点(各回指示以外) 自習事項 | 常にグローバル的な発想法で教材や参考書を読み、議論すること。日本語・英語・中国語の資料を積極的に利用し分析すること。 | |
| 評価方法と評価基準(期末試験、レポート、ディベート等) | 国際政治に関するテーマを自分で決め、レポート（四千字以上）の提出を求める。レポートと平常点に基づいて評価する。 | |
| テキスト 独自教材 | 家 正治：『国際関係』、世界思想社 | |
| 参考書 | 細谷千博：『国際政治経済資料集』、有信堂 岩崎育夫：『現代アジア政治経済学入門』、東京経済新報社 増田弘・木村昌人編著：『日本外交史ハンドブック』、有信堂 小原雅博：『東アジア共同体』、日本経済新聞社 | |